

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学力の定着・向上	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の家庭学習の定着及び習慣化に取り組むとともに、学校における学習の場を提供する。 ○授業アンケートや授業公開を活用し、教員の授業改善や授業力向上につなげる。 ○校内学力向上推進会議において本校の目指すべき方向を共有し、学校全体で学力の向上、定着に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で生徒に家庭での学習時間を記録させるとともに、保護者向けの進路説明会で家庭学習の定着化、習慣化の呼び掛けをした。学校においては、基礎学力講座や夏期補講、自習室の開放、学習マラソンなどの取組を進めた。 ○授業アンケートは年2回、授業公開は年2回の全体公開に加え、有志による公開が6回など、回数が増加した。 ○年間7回の会議を開催し、新たに授業力向上チームを立ち上げ、「生徒が考え学び合う授業」作りに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の定着、習慣化はある程度進みつつあり、学校においても、放課後教室や廊下で自主学習に取り組む姿が見られたが、指示されたことのみをしている生徒も多い。自主的に学習に取り組むよう、意欲を育む個別的な指導の強化も必要である。 ○授業アンケートは実施時期等を早め、その結果を年度内に授業の見直しに活かせるようにする必要がある。 ○模試データの共有や、模試の事前事後指導のしくみ作りができた。一方でFクラスは、模試の事前指導の土曜補講受講者が少なく、活性化の方法を検討していく必要がある。
進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○進路ガイダンス(国公立大学ガイダンス等)の内容を充実させる。(学期2回程度) ○進路意識を啓発するため、時期に応じた内容の「進路だより」や「学年通信」の発行、大学見学や大学による出前授業、外部講師による進路講演会、担任との面談等を充実させる。 ○教員の進路指導力を強化するため、学年と進路指導部による進路懇談会や、職員研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生を対象に、分野別・推薦・センター試験・国公立推薦・個別大学等、多くのガイダンスを実施した。また新たに、2年生の教員志望者対象にガイダンスを実施した。 ○「進路だより」は年間で1・2年生が7回、3年生が15回、「学年通信」は1年生27回、2年生15回、3年生3回発行した。面談週間は年2回であるが、文理選択や科目選択、進路先の決定などの時期には、必要に応じて随時行った。 ○1学年とは9回、2学年とは8回、3学年とは26回進路懇談会を実施した。職員研修会は3回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々なガイダンスを実施することにより、個々の生徒の進路に応じたきめ細かな指導ができた。 ○時期に応じた内容の情報発信をすることで、生徒だけでなく保護者にも進路意識を啓発することができた。大学見学会や出前授業を実施することで、大学での研究に関心を持たせることができた。1年生の小論文指導、2年生の表現力指導は、なかなか進路指導に結びついていない。 ○進路懇談会は職員間の連携を深めることができ、統一した指導につながった。職員研修会は意欲的な取組に、刺激を受けることができたが、時期や日程を検討する必要がある。
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理マニュアルを見直す。 ○生徒一人ひとりが互いに信頼し、ともに受容し合う人間関係づくりの充実を推進する。 ○心の問題の早期発見、早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難場所の見直しや「いじめ防止基本方針」を含め、マニュアル全体を見直した。 ○生徒が「ともに学び合う授業づくり」をめざし、授業改善に取り組んだ。 ○教育相談係と厚生部、関係職員間で気になる生徒の情報共有する場を設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな避難場所への避難は、雨天のため実施できなかったため、来年度実施し、検証する必要がある。 ○授業を通して、生徒が望ましい仲間関係を構築し、ともに成長できる体制ができつつある。 ○情報共有することで、スムーズな対応や多角的な見方ができるようになった。今後は学年との情報共有が必要である。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	①生徒や保護者の満足度は高く、しかも少しずつではあるが年々上昇しており、学校全体がよりよい学校づくりに向けて改善に取り組み、落ち着いた状態にある。 ②本校の目指す学校像である「地域における進学校としての教育・進学ニーズに真正面から応える」を実現するため、昨年度より学力向上推進会議を、本年度から1・2年学年主任・進路担当者会議とSクラス担任会議をそれぞれ立ち上げ、体制が整いつつある。 ③授業力向上に向け、授業公開や教員同士での授業研究も進み、授業改善の意識が向上してきている。
弱み	①「文武両道」を目標に掲げていることから、限られた時間の中で部活動と勉強の両立に悩む生徒も多い。学校全体で課題の量や質、部活動の練習時間などの調整が十分ではない。 ②授業アンケートは実施しているが、その結果を必ずしも授業改善に活かしてきれていない。 ③職員室が各学年・分掌ごとに分散しており、教職員はコミュニケーションや協働関係に課題を感じている。 ④職員は多忙感から、働きやすい施設や環境、休暇の取得、休憩や休息できる時間や場所に関して、課題を感じている。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数> 3回	
内容実施	第1回 授業見学、平成26年度学校評価報告書と平成27年度学校経営の改革方針について、意見交換。 第2回 授業見学、生徒・保護者満足度調査等から本校の課題を共有。上半期の活動について報告し、意見交換 第3回 平成27年度学校自己評価票をもとに質疑応答・意見交換。次年度以降の課題と改善策の確認

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
評価関係者	○生徒の主体性や自律性を育むとともに、学校としての特徴を打ち出し、生徒の学習意欲を維持、向上していくような機会を設ける必要がある。 ○生徒の進路希望を実現するよう、「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす指標」を新たに設定する必要がある。 ○授業力向上に向け、学力の三要素である「思考力・判断力・表現力」を伸ばすような取組を工夫していく必要がある。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
①学力の定着・向上に向け、整いつつある校内体制を有効活用し、学校全体で目指す学校像の実現に向けた取組を進めていく。 ②授業力向上に向け、授業アンケートを有効に活用し、生徒が考え学び合う授業づくりを目指すとともに、「入ってきた生徒の力を引き出し伸ばす指標」を、新たに模索する。 ③校内連携を意識した情報共有の方法を新たにルール化すると共に、校内OJTとして各学年・各教科での意欲的な取組を紹介する機会を設ける。	

